

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年8月1日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子第2幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

「笑顔がいっぱいの杉の子第2幼稚園」
①心身ともに調和のとれた発育・発達と健全な人間性の基盤を作ること
②精神的にも肉体的にも、つよく・かしこく・たくましく・感性豊かな思いやりのある子の育成
＜杉の子第2幼稚園の教育＞
「杉の子第2幼稚園の教育とは、しっかりした理念をもって、子どもを伸ばすことである」～しかも、笑顔つきで～

2. 本年度重点目標・計画

＜本年度の重点＞
・教職員の資質・指導力の向上⇒個々の力と組織力（チーム園の結集）
・人間的な魅力（あたたかさ、ポジティブシンキング）
・表現力、特に聞く力の育成
・個から集団へ（個を大切にしながら、集団としての力を育む）
・保育から教育へ（幼稚園らしさの追求）
・保育部・幼稚園部・預かりの連携
・危機管理（安全対策）
・人材の確保・育成
・感染症対策
↓ そのために
○目標と指導と評価の一体化を図る
○つきたい力、目標等を明確にし、子どものやる気、主体性を生かす展開、活動を行う
○一生懸命にやるすばらしさを体感させる
○子どもの話（声）に耳を傾ける
○年長児のモデル化、異学年の交流を図る
○行事や体験活動、あそびを通して生きる力を育む⇒合言葉は「キラリン あそぶぞ エイエイオー！」
○いろんなことを大好きになり、「やった感」をもたす⇒合言葉は「Love it! Happy! 大好き! 楽しい! 笑顔爛漫」
○「はじける」⇒自己変革
○あいさつ、「ありがとう」「ごめんね」が気持ちよく言える子どもを育成する
○情報の発信を行う
○子どもの笑顔があふれる環境づくりを行う
○詩の朗読⇒楽しく表現
○保護者の声を聞く⇒幼稚園アンケートの実施
○継承と発展⇒「このような子どもに育てたいから、このような取組をしていこう！」の視点で
○コロナ禍の教育課程を考え、子どもを中心とした保育・教育を実践する
※人には優しく、自分に厳しく、保育・教育のプロとして愛をもって、子どもを伸ばしましょう！

3. 評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	評価	取組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	A	・「キラリン あそぶぞ エイエイオー」の合言葉のもと、全教職員が「あそびの延長線」として子どもたちが楽しく取り組めるような計画を立てている。様々な活動を、練習としてではなく、ごっこ、あそび、チャレンジとして子どもたちの「やりたい!」を引き出せるような保育・教育を意識していた。また、「大好き! 楽しい!」時間がたくさんとれるような環境づくりや事前の準備を十分したことによって、子どもたちも楽しく取り組めることができた。 ・年間を通して共通の合言葉のもと、各職員が意識し、クラスはもちろんのこと園全体でも一体感のある活動や行事ができた。各職員が、それぞれの立場で子どもたちのため、保護者のためと全力で向き合い、さまざまな経験をしながら学ぶことができた。 ・行事をやり遂げたら終わりではなく、余韻あそびや子どもたちの興味関心を次につなげる取組ができた。また、天候や感染症のためできなかった行事も、その代わりになるものを発案し、子どもたちとともに楽しめた。
2	職員の資質向上(研修・情報共有等)	A	・行事毎に目標を立てることに習慣化ができています。目標を明確にすることで、自分の保育・活動のねらいを今一度考える機会にもなり、保護者にも知らせることで一体感をもって行事等を行うことができた。職員同士の指導技術も、園内研修等を通して互いに知ったり認めあったりでき、自分の保育に重ねて振り返ることができた。 ・イラストを使ったり、分かりやすく言い換えたりなどの支援は積極的に行っている。また、その支援に対しての研修や自分で学ぶ時間も設けることができた。 ・園内研修やキャリアアップ研修等、資質向上のための研修もできるだけ多くの職員が参加することができ、日々の保育の振り返りや見直し、次へとつなげていくことができています。 ・職員同士で子どもたちの様子を話し合ったり、情報交換を行ってきた。また、日々の保育についても、毎日同じ活動にならないように、保育室の環境を変えたり、新しいことにチャレンジできるように工夫されていた。 ・あいさつに関しては、幼稚園アンケートを通して自分たちのあいさつを見つめ直すきっかけにもなった。
3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する(家庭との協力・連携も含む)	A	・事業所等と連携をとり、子どもの姿を共有し、一貫した支援ができるよう取り組んできた。保護者に対しても、何気ない日常の様子はもちろんのこと、成長したこと、できるようになったこと等をその日のうちに伝えることを意識し、同じ目線で喜び合い、子どもを認めていけるようにしてきた。 ・療育等の機能を含め、保護者との面談を経て、現在の取組、今後どうすべき、どうしたいか等の話し合いが十分できていると感じる。 ・各クラス、そして、園全体で気になる子どもたちの姿や成長をみんなで見守ることができた。就学相談等でも、話し合ったことを資料としてまとめ、園全体で共通理解したり、個別移行支援計画の作成から小学校・教育研究所と密に連携して話し合うことができた。担任だけでなく、副担、園全体で成長を見守り、支援できていた。 ・一人ひとりの子どもを丁寧に见ること、保護者の願いや思いに寄り添うことは、全職員が心がけて心を込めて対応している。
4	安全管理体制の強化	B	・アレルギー対応は、クラス、預かり時共に多数の目で確認、対応している。二重チェックや机を分ける、職員間の声かけ等気を付けて行っている。安全管理も人員を配置し、抜かりの内容に気を付けている。 ・安全に楽しくあそぶように全体を見てあそびを見守っている。おもちゃや環境設定等も危険がないように配慮している。 ・日頃から各クラスの子たちへの配慮や報連相を行い、職員全員が共通理解し、安全に過ごせるようにしている。 ・マット等を用いて、環境を工夫したり、声をかけをして危機管理に努めることができた。 ・子どもの様子をしっかりと見て、危険を未然に防ぐことができています。 ・危機管理の視点を持ち、子どもの姿を予想しながら活動を行うことはできているが、怪我やトラブルを予防し過ぎて、子どもたちの活動を制限してしまっているかなと感じることもある。

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取組まれているが、成果が十分でない D: 取組みが不十分である)

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人ひとりの子どもを大切に質の高い教育・保育を実践することができた。また、更なる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取組まれているが、成果が十分でない D: 取組みが不十分である)

5. 今後取り組むべき課題

	課 題	具体的な取組方法
1	教育内容	コロナ禍で考えた行事の見直し等を生かし、子どもの姿や体験させたいことをベースに新たに考えていきたい。従来の形にしばられず、時間や気候等を考えて、子どもの体力に応じた活動を取り入れていくようにしたい。子どもの「やりたい!」を大切にしながらも、簡素化できることはシンプルにしていきたい。子どもの「やりたい」気持ちをクラス単位で考えるだけでなく、園全体として考えていく必要がある。園庭の使い方等環境設定についても、みんなで考え、学んで実践していき、子どもの笑顔につなげていきたい。子どもにも得意不得意があるので活動を嫌がることもある。苦手なことに取り組む子どもに対して、子どもたちが「できた! 楽しかった!」と感じるための声がけや援助の方法を考え工夫していくことが大切である。 さまざまな活動に取り組むなかで、自分で選んだり、自由に表現できるようにする等、子どもの主体性を意識していきたい。教具や機器がより活用できるように、使い方、利用の仕方等、学ぶ時間を取りたい。自由あそびの時間や外あそびでは、子どもたちが夢中になっているあそびや、あそび込んでいることが少ないように思う。今の子どもたちの姿からどのようなあそびを提案するのか、子どもたちが自分で好きなあそびを見つけられるためにどのような援助が必要か等々、一人ひとりの保育者が考えていかなければならない。あいさつや笑顔いっぱいの対応については、保護者からの指摘もあった。幼稚園の根幹にかかわることなので、全職員で取り組む必要がある。「おはよう」だけでなく、何か一言加えることにより、保護者にも子どもにもプラスに感じられるのではないかな。 特別な支援の必要な子どもについては、全職員がその子どものことを理解し、特性を把握しておくことが必要である。今後とも、家庭や職員間でいねいに情報を共有し合いながら、支援を必要とする子どもへの対応や進級後の引継ぎ、就学支援につながるように連携を図っていけるようにしたい。自分たちなりに考え対応できていると思うが、保育の質をより向上していくために、研修に参加したり、専門的な知識をつけていきたい。子どもたちの素敵なところ、成長したこと等その日の保育で感じたことを記録し、良いところに目を向けてポジティブな声かけを意識していきたい。 アレルギー児に対して、確実にチェックができるよう、今後も注意をしていくことが必要である。安全面でも、一人ひとりが危機意識を高くもち、子どもや保護者対応するために報連相を大切にしていきたい。子どもの姿をもっとよく捉え、十分に危険には配慮したうえで、子どもたちに任すことも考えていきたい。そして、実際にトラブルが起きた時、子どもも保護者も安心できるような対応をとっていきたい。地震や火災などは訓練を重ねているが、不審者に対する訓練も行っていきたい。

6. 学校関係者の評価

<令和5年度後援会長>

・毎年、テーマを決めて計画的に保育・教育を行い、良い事は継続、改善が必要な事は検討をするなど、時代に沿うように取り組んでいる事が感じられる。ネットワーク発信が増えているが、写真投稿などはプライバシー保護の面でも細部に渡る所まで流出がないように配慮されており、保護者としては安心して預ける事が出来ている。

・保護者の声を聞く目的でアンケートが行われたが、早急にまとめた上で情報開示し、年度を跨がずにすぐ改善された事柄もいくつかあった。そういう対応力の早さには保護者としても感謝したい。

・教育目標にもあるように、今後も理念をもって子どもたちとの関わり、笑顔を大切にしていきたい。

<あたご幼稚園園長>

子どもの意欲と真摯に向き合い、子どもの内面をいかに充実させていくかという点にこだわって進んできた足跡を、文面から強く感じる。また、その中で、先生方が楽しく仕事をしていられる様子も合わせて感じた。合言葉をコンセプトにすることで、日々進んでいくベクトルが明確になっている点も、たいへん興味深いものであった。『子どもにとって』『先生方にとって』互恵性のある実践であったことが、容易に想像できる。この延長線上に、日々煩雑な業務を簡素化していくことも可能ではないか?と感ずることが出来る自己評価であったと思う。今ある雰囲気こそ、この園の力であると思える。それを軸として、更に素敵な方向へ進んで行っていたいただければうれしい。

<評議員/株式会社メディア・エーシー取締役会長>

園の取組が子ども主体に考えられており、ポジティブであると感じた。特別支援教育や安全管理体制の強化など、非常に厳しい目配りを必要とされている状況にも関わらず、子どもの目線に立って保育・教育を子どもたちのあそびにつながる観点で真摯に取り組んでいる。また、危機管理を強く求められている状況にありながら、子どもたちの安全を保つことに注力しながらも、子どもたちに対して活動の制限をし過ぎているのではないかと気にしている姿勢に好感をもてた。

<高知市立鴨田小学校長>

・共通の合言葉で、子どもたちが楽しく取り組んできた様子が表情や行動に表れている。それぞれの立場で保護者と連携をしながら、重点目標達成のために計画された内容を実践されたことが伺える。

・新型コロナウイルスが5類に移行したことに伴い、コロナ禍中に考えた行事や取組の再編成を行っている。子どもの「やりたい」を園全体で大切にしたい教育内容が展開されている。

・支援が必要な子どもたちについては、在園中から専門機関や事業所等の他機関と連携した指導・支援を今後も継続していただきたい。保護者との面談を行い、それらを共有しておくことを大切にしている。これらの取組のおかげで、入学前の個別の支援引継ぎ会では、個別の移行支援計画を用いて貴園と本校で円滑な対応をすることができている。

・職員の資質向上のための研修や情報共有により、子どもを見守り、育てる職員集団が出来上がり、子どものもっている力を最大限に引き出しているように感じる。子どもたちが遊びの中で、友だち関係も含めていろんなことに気付き、成長しているのだろうと思う。自分のことも友だちのことも大切にしている様子が見られる。